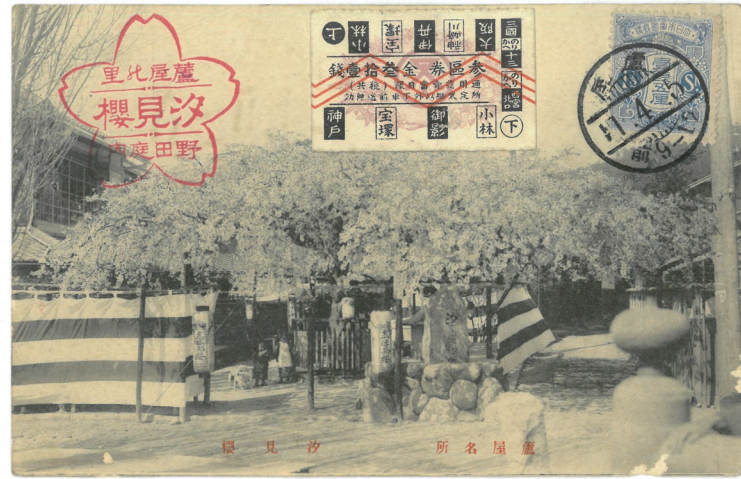


# 精道村名所案内

精道村の名所の魅力は、大都市近郊に残る美しい自然でした。

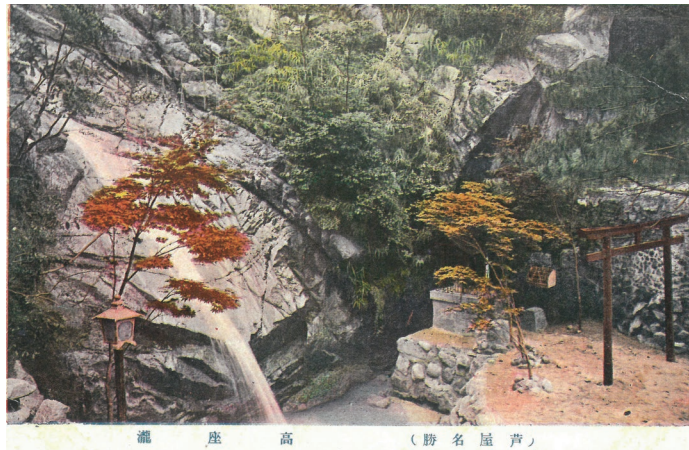
大正10年(1921)に武庫郡教育会が刊行した『武庫郡誌』には、精道村の名所・旧跡として、在原業平別荘跡、潮見桜、漢人浜、芦屋遊園地、高座の滝、烏帽子岩、弁天岩、奥山の池、鷹尾城跡、打出の陣所、岩ヶ平の古墳、報恩寺跡の石棺の蓋、烏塚、コンコン塚、鶴塚、三条村の古墳、涼塚及び石窟、金津丘、月若屋敷跡、公光屋敷跡が掲げられています。



## 芦屋の名木「潮(汐)見桜」

(絵葉書：大正11年(1922)使用)

潮見桜は、平安時代に在原業平によって植えられた伝説がある。その名は、この桜から一望できる芦屋沖に紀州熊野から流れてくる虹のような潮筋がみえたことに由来するという。明治から大正の潮見桜は3代目で、明治6年(1873)に開森橋の西詰に芦屋小学校を新築する際、校庭に植え継がれた2本の枝垂れ桜。昭和初期に枯死するまで、芦屋の名木として広く知られ、芦屋の名所となっていた。



## 高座の滝

(絵葉書：昭和初期発行。手彩色)

高座の滝は、高さが各10m以上の雄滝と雌滝からなる夫婦滝。明治40年代以降に発行された多くの絵葉書や大正～昭和初期の阪急電鉄や阪神電鉄の沿線案内に取り上げられており、芦屋の名所として知られていた。



## 芦屋神社のつつじ

(絵葉書：昭和初期発行。手彩色)

当時の芦屋神社の境内に密生する数千株のつつじ(コバノミツバツツジ)は有名で、阪神間の名所として広く知られていた。花が咲く4月下旬頃には、多くの観光客が訪れた。

なお、コバノミツバツツジは、昭和46年(1971)に市の花に制定されている。

精道村の海岸は、沖が遠浅で漁場に適しており、明治にはイワシの地曳網漁が盛んに行われていました(4ページ)。そのような中、明治の終わりから昭和の初めにかけて、豊かな自然環境や白砂青松の優れた景観が魅力となって別荘地や保養地として発展したことから、精道村の浜辺では避暑と健康促進を兼ねた娯楽として海水浴が盛んになりました。

## 打出浜海水浴場

明治38年(1905)に開かれた関西初の海水浴場で、休憩場3ヶ所、食堂、脱衣場、貸しボート、写真店の出張所、浴後の淡水ポンプ井戸などが整備されました。しかし、多くの来場者で賑わう反面、牡蠣の殻で足を怪我するなど、海水浴場として不適な面も明かになりました。こうした背景から、経営元の阪神電鉄は阪神沿線最大のレジャー施設であった西宮の香櫨園に注目し、翌年には海水浴場を香櫨園浜へ移しました。



## 打出浜海水浴場

(絵葉書：明治40年代発行)

明治39年(1906)7月13日に催された大阪毎日新聞・阪神電鉄主催の開場披露会では、記念品にうちわが配られ、花火や楽隊・相撲大会・競馬会・素人浄瑠璃会・地曳網などが催された。

## 芦屋浜

白砂青松の美しい芦屋の海岸は古代より「漢人浜」と呼ばれ、名勝地として広く知られていました。

明治には漁場でしたが、明治の終わりから精道村が郊外住宅地として発展する中で、海水浴や潮干狩りの場として賑わい、親しまれるようになりました。



## 芦屋浜の海水浴場

(絵葉書：昭和初期発行)

## 芦屋浜での潮干狩り

(絵葉書：大正～昭和初期発行)

